2021年5月13日

株式会社IHI

「2020 年度決算」説明会

主な質疑応答

1. 21 年度の産業システム・汎用機械の営業利益見通しの確からしさは？
   - 同セグメントにおける工事採算変動のプラスは，主に車両過給機事業の改善によるものである。
   - 同事業は，20 年度の前半はコロナの影響で利益をほとんど創出できなかったが，後半はコロナ影響からの回復に加えてコスト構造の強化が実現し，利益を創出できるようになった。
   - この後半の状況が継続し，21 年度は大幅な利益改善になると見通している。

2. 民間向け航空エンジン事業の 21 年度の見通しは？
   - スペアパーツの売上増加による増益効果はあるものの，初期負担の重い新製エンジンの販売増加によって，その効果が相殺されるとみている。
   - 生産性改善を中心にコスト構造を強化することで，前年度比で赤字幅圧縮を見込む。

3. ライフサイクルビジネスの実績と見通しについて
   - 20 年度はボイラ事業を中心に伸びた。
   - 21 年度はエネルギー分野に加え，デジタル化を進めて力を入れている産業システム・汎用機械にも期待をしている。

4. 車両過給機事業の地域別売上高見通しが，中国で減少，北米で増加する背景は？
   - 中国については，半導体不足の影響もあるが，大きくはモデルチェンジによる一時的な影響である。
   - 北米については，コロナからの回復に加えて，新規案件の量産拡大を予定している。

5. 設備投資と研究開発費について，21 年度見通しは，19 年度実績と比較するとまだ抑制的に見えるが，20 年度同様に凍結・抑制を続けるということか？
   - 21 年度は 20 年度と同じレベルでの凍結・抑制は考えていない。計画策定の段階で内容を精査した結果として，見通しに示した水準となった。
   - 19 年度は埼玉県鶴ヶ島市に建設した新工場関連の投資額が含まれていることもあり，金額が大きくなっている。

6. 明星電気の完全子会社化は，宇宙開発事業とのシナジーを視野に入れているのか？
   - 当然視野に入れている。同社のカメラとセンシングの技術は，IHI グループの宇宙開発事業に欠かせないと考えている。同社と IHI エアロスペースが，小惑星探査機はやぶさのカプセルやカメラの開発で協働した実績もある。
   - さらに，防災・減災に貢献する気象関係の技術， CO2 排出に関わる技術等，幅広い分野での技術活用を視野に入れている。

7. 21 年度業績見通しに織り込んでいる資産売却とバッファの水準はどの程度か。資産売却は 2022 年度以降も継続する予定があるか？

- 資産売却益を 500 億円程度，そこにバッファを織り込んで，20 年度に計上した 200 億円強から 180 億円の増益と見込んでいる。
- 成長事業創出の原資確保のための資産売却は 21 年度までと考えているが，適宜検討していく。

以上